

市政について聞く（一般質問）

3月定例会では、10名の議員により、2日間にわたって一般質問を行いました。
ここでは、主な質問と答弁の要旨を掲載します。

岡田市長 8年間の総括

問 岡田市長は、市長として市政にたずさわられた8年間の自己評価、成果をどのように考えているのか。
答 市長に就任してからの8年弱は、成長期のまちづくりから成熟期のまちづくりへの過渡期であり、三田市に残された懸案や課題を解決するため、心血を傾注して取り組んできた。その基になる考え方は、



▲市民とともに運営されている多世代交流館

また、私が「ふるさと三田」のまちづくりにあたり、成果が、新しい体制にも引き継がれ、市民だれもが安全で安心して暮らせる「人と自然が輝くまち・三田」が実現できるように、残された期間、市政推進にまい進していきたい。

新・行革断行プラン

問 市民への負担増になる新・行革断行プランは、直し、市民の意見を聞きながら再検討すべきと考えられるか。
答 市は、時代に即応した行政運営を行い、市の事業を最も適した形にするため、「都市経営システム推進大綱」の取組みを進めている。また、市民との協働という理念の下、市民と行政との役割分担を見直す中で、行政が行うべき事業の優先順位をつけている。

現在の総合計画「輝き三田21」に込めた「市民・事業者・行政の協働のまちづくり」である。行政主導の行政運営から、地方分権社会に対応した「市民と共にまちを運営する」という考え方を基本に据え、さまざまな事業を実施してきた。このようなまちづくりへの取組みによって、多くの市民が暮らしに満足している。ただいまの今の三田市の姿が市長としての8年間の成果であるのでは、と思っている。

また、私たちが「ふるさと三田」のまちづくりにあたり、成果が、新しい体制にも引き継がれ、市民だれもが安全で安心して暮らせる「人と自然が輝くまち・三田」が実現できるように、残された期間、市政推進にまい進していきたい。

質問議員名

酒井 一憲 (盟正会)	松岡 信生 (公明党)
関口 正人 (市民クラブ21)	中田 初美 (日本共産党)
今井 弘 (民主党)	三木 圭恵 (新風みらい)
城谷 恵治 (日本共産党)	関本 秀一 (新風みらい)
大月 勝 (清風会)	野村 弘子 (市民ネットワーク)

問 急激な改革でシルバー人材センターの経営を圧迫することは、高齢者の雇用の場を奪うことになり、三田市の高齢化に向けた取り組みにマイナスの影響を及ぼすのではないかと。市のセンターの位置づけについて伺いたい。

シルバー人材センター

問 今年は三田市において県議会議員選挙、市長選挙、参議院議員選挙と選挙が多く予定されている。選挙開票事務の効率化、迅速化にどう取り組んでいくのか伺いたい。

選挙事務の効率化

答 全国的に選挙事務の

用語解説

新・行革断行プラン

三田市では平成18年4月から財政再生を目的とした「行革断行プラン」を実施してきました。しかし、平成17年度決算の財政指標がさらに悪化した(経常収支比率が95.8%と対前年度比5.4ポイント悪化)ことを受けて、新たな計画として19年4月から実施する予定で「新・行革断行プラン(H19~21)」の策定作業が行われてきました。しかし、新プランは、行政サービスの見直しなど、市の重要な施策に関わるものが予定されている一方で19年夏に市長選挙を控えていることを理由に、策定作業が延期されました。

渉が必要である。今後は、残された内部改革を実施するため、市の置かれていた現状と将来予測を全職員に十分説明し、理解を求めていきたい。特に職員の給与カットについては、市長を先頭に不転の強い姿勢で職員組合と協議、交渉を続けている。



▲緻密な作業の裏には技術と経験が生かされている(シルバー人材センター)

答 シルバー人材センターでは、高齢者の方々に対して雇用契約を伴わない臨時・短期的な就業の機会を提供と高齢者の豊かな知識や経験、技術を生かしながら住みなれた地域で生き生きと暮らしていただけるような生きがいづくりに取り組んでいる。今後の高齢社会の進展の中でセンターの役割は大変重要である。

また、開票事務の短縮が取り組まれ、兵庫県では、伊丹、加西、丹波市及び三木市で実施されている。当市においても、改善に取り組んでいる。まず、人件費の削減として、期日前投票システムの導入や、投票事務に可能な限り臨時職員などを活用し、市職員の拘束時間を減少させ、経費削減を図っていく。